

改善計画・結果報告書

平成 21 年 6 月 30 日

評価会議議長 殿

工学部・工学研究科

組織評価に関する実施要項第10に基づき、平成20年度に実施した組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり改善計画・結果を報告します。

自己評価書における【改善を要する点】

要改善事項
・輸送機器、光といった地域産業の特色を取り込んだ新たな学科構成が求められており、学科改組によりさらに地域に貢献する教育・研究を展開することが必要である。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
・基盤となる3学科（機械、電気電子、物質）と二つの新しい融合学科（知能メカトロニクス、光応用物理）からなる改組計画案を審議検討中。（21年3月をめどに態度決定）
改善結果
・上記の改組計画案が3月の教授会で可決に至らなかったため、当面は既存の学科体系のなかで改革を進めていくこととし、今後全学の組織変更と連携を取りながら発展の可能性を検討していく。

要改善事項
・教員に占める女性、外国人の比率が低い。女性教員や外国人教員の数を増やす方策を検討する必要がある。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
・全学の女性教員増加計画に沿うように努力するとともに、学部としての目標を立てる。 ・教員の募集時に外国人の登用も心掛ける。
改善結果
・女性教員増加に関し、平成24年度までの目標は設定したが、成果はまだ現れていない。 ・テニュアトラック人材として工学部教員をメンターとする外国人准教授1名が2009年1月に任用され、今後成果ができれば工学部に任用されることになっている。

要改善事項
・現在の入学試験では、一般選抜の前期と後期の入学手続き者がそれぞれの募集定員を超えなければならないという制約のもとで合格発表者人数を決めており、これが過員の発生する大きな要因となっている。これを、前期と後期の合計の入学手続き者が募集定員に達していればよいというように、選抜条件を緩和する必要がある。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

<ul style="list-style-type: none"> ・全学入試委員会および理事に改善を要求する。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・まだ結果には現れていないが、今後も根強く要望していく。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・JABEE認定プログラム、オフィスアワーの充実等により、学生全体の学力を底上げする制度は充実しているが、特に優秀な学生の能力を伸ばす制度としては早期受講制度があるのみであり、さらなる制度の充実が望まれる。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な学生の支援を行なう。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生による奨学金（村川奨学基金、25万円×5人）の選考を、従来は1年次の初めに行なっていたが、今年度から1年次の末に成績優秀者を選考して支給するように変更した。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生ならびに就職先企業に対するアンケートにおいて、「国際感覚」や「外国語能力」に対する習熟度ならびに満足度が低く評価されている。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度のカリキュラム改訂に伴う実用英語科目の効果が現れることを見守っていく。 ・大学院生には国際学会での発表を奨励している。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育改善の効果は、もう少し様子をみないと判断できない。 ・大学院生の国際会議発表は増えてきている。工学振興基金による発表支援も継続中。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・浜松キャンパスでは4年一貫教育開始後、学生数が大幅に増えたことにより、課外活動関係施設が不足しており、各施設の増築が必要である。また、浜松キャンパスの男子学生数に比して学生寮の収容定員が少なく、女子寮が無い。保健管理センター分室は浜松キャンパスの学生数・教職員数に比して手狭であり、対策が望まれている。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・関係部署に施設の充実を働き掛ける。 ・女子の入れる寮の建設を要望中。 ・キャンパス全体で保健管理スペースの可能性を探る。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・施設充実は経費の関係で難しいが、要望を出し働き掛けている。 ・留学生と女子学生の混住型の新寄宿舎の建設が決まった。（平成21年度末に完成予定） ・保健管理スペースについては特に進展なし。

要改善事項

<ul style="list-style-type: none"> ・全学FD委員会が実施する学生による授業評価アンケートや合宿研修、講習会への教員の参加など全学的なFD活動は行っているが、工学部独自のFD活動は不十分であり、強化が必要である。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・学部FD委員会を中心に、学部や学科のFD活動を推進する。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・学部FD委員会の働きかけにより、全学的なFD行事への参加者が増えた。 ・FD活動はJABEE推進学科で先行しているが、学部全体としての活動はこれからである。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・大学院教育において、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかを検証するための取組が必要である。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の追跡調査を行なう。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では取組みが不十分であるが、今後行なう予定。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・大学院における研究指導體制の全体的な仕組みは整備されているが、具体的な研究指導法や研究評価法が全専攻で統一されていない。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・指導評価方法について教務委員会で検討する。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・素案を検討しつつあるが、未だ全体の合意には至っていない。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・学部生と大学院生を合わせて約3,900名の男子学生に対し、収容者数162名の学生寮しかなく、不足している。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・寮の増築改修希望は出しているが、女子寮を優先せざるを得ない。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人と女子学生の混住型の新寄宿舍の建設が決まったのみである。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・大型プロジェクトのリーダー教員や若手支援プロジェクトに取り組む若手教員に限られてきているので、より多くの教員が多様な観点から関わりを持てるような施策が必要である。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進企画室で検討する。

改善結果
・学部単位や学科単位での工学部プロジェクトの制度を検討途中であり、今年度に制度化したい。
要改善事項
・今後、より多くの研究成果を得るには、さらに多くの外部研究資金を獲得する必要がある。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
・研究推進企画室で検討。
改善結果
・工学部プロジェクトを検討中であり、その立ち上げによって将来外部資金の獲得に繋がることが期待できる。
要改善事項
・教員データベースへのデータ登録は各教員に任されており、データの収集・蓄積はまだ完全ではない。入力データの完全性を確保するために、入力状況の確認を行うなどの枠組みの構築が必要である。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
・期末勤勉手当や昇給、教員の個人評価の機会を捉えて入力 of 徹底を依頼する。 ・使いやすいデータベースの構築を働き掛ける。
改善結果
・様々な機会に入力依頼しており、多少なりとも入力の改善は図られてきている。
要改善事項
・市民開放講義の開講数が全学と比較して工学部は少ない。また、工学部説明会の開催地域なども限定されている。今後は静岡県や愛知県東部に限定せず、さらに広い地域での募集や開催が望まれる。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
・公開講座は全学の生涯学習センターとの連携で進めていきたい。学部独自では、小中高校生の実習講座などに力を集中したい。
改善結果
・地域連携協働センターや生涯学習センターとの連携が図られつつある。 ・小中高校生向けの実習講座は、さらに充実しながらやっていく。
要改善事項
・英文での公表に関し、国際交流センターホームページに掲載されているのみであり、国際交流活動が外国の大学・機関を相手に行われるという意味で、英文ホームページの充実が必要である。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
・学部ウェブページにおける英文ページの充実を計画中。

改善結果
・ひと通りの英文ページの充実改訂を終了した。

要改善事項
・今後、さらに国際交流を拡大し、より多くの留学生を受入れ、支援体制を充実するためには、広報活動の場を広げる必要がある。

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
・アジアからの秋季入学制度（NIFEEプログラム）の確立を図る。 ・英文ウェブページの充実を図る。

改善結果
・NIFEEプログラムでの留学生入学募集に対し、一般応募は0であったが、フェ市との協定に基づく志願者が4名あり、現地での面接選抜試験を経て6月の教授会で3名の合格を決定した。 ・英文ウェブページの見直し改訂が終了した。

要改善事項
・国際交流活動に取り組む教員や研究室の数をさらに増やすために、例えば活動資金の援助などの方策が必要である。

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
・卒業生の基金（村川基金）の活用による教員の海外派遣を継続する。

改善結果
・2008年12月より1名の教員を1年間カリフォルニア工科大学に派遣し、2009年秋にもう1名派遣することが決まっている。（2009年3月には1年間の滞在を終えて教員1名が帰国）

要改善事項
工学部の建物の完全なバリアフリー化を進める必要がある。 食堂・売店、課外活動共用施設、学生寮、国際交流会館など学生の厚生施設の整備をさらに進める必要がある。

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
・建物の改修の際にバリアフリー化を進める。 ・福利厚生施設の充実を働き掛ける。

改善結果
・電気電子工学科棟の第Ⅱ期改修が終了し、同棟がバリアフリー化された。21年度に着工予定の機械工学科棟の改修に際してもバリアフリー化を進める。 ・混住型の寄宿舎以外に福利厚生施設の進展なし。

要改善事項
科学研究費補助金の採択数、交付額を増加させる必要があり、組織的な対策、環境づくりが必要である。

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進企画室で検討。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・工学部プロジェクトを検討中であり、その立ち上げによって将来外部資金の獲得に繋がる事が期待できる。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・工学部・工学研究科の教育研究活動を継続発展させるためには、事務職員の増員が必要である。運営組織を変更し、簡略化したことにより、一部の教員にロードが集中する傾向にある。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・人員増に向けて本部への働きかけを強める。 ・浜松キャンパス内でのより合理的な事務組織のあり方を検討する。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・人件費の問題があり、増員は実現できていない。 ・キャンパス内の事務組織の合理化は、浜松キャンパス部局長間の話題にはなっているが見通しは立っていない。

外部評価における主な指摘事項（自己評価での改善事項と重複するものもあり）

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・女性教員および外国人教員が少ない。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・全学の女性教員増加計画に沿うように努力するとともに、学部としての目標を立てる。 ・教員の募集時に外国人の登用も心掛ける。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・まだ成果は現れていない。 ・テニュアトラック人材として工学部教員をメンターとする外国人准教授1名が2009年1月に任用され、今後成果が出れば工学部に任用されることになっている。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育の更なる充実を図って欲しい。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度より全学的な教養科目の改変を行なったので、その成果を見守りたい。 ・現代GP「技術者の実践対応力育成プログラム」が進行中であり、それらによる充実も図りたい。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・新生セミナーを利用したキャリア形成ガイダンスの改良や、学際科目の充実が図られている。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語能力、国際感覚の更なる育成を図って欲しい。

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度のカリキュラム改訂に伴う実用英語科目の効果が現れることを見守っている。 ・大学院生には国際学会での発表を奨励している。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育改善の効果は、もう少し様子を見ないと判断できない。 ・大学院生の国際会議発表は増えてきている。工学振興基金による発表支援も継続中。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・浜松キャンパスにおける事務系職員の充実が必要。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・充実を図りたいが、昨今の情勢では人員増はほとんど困難である。 ・人の配置の工夫により、効率的な運用に努めたい。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・浜松キャンパス全体を見回して技術職員の配置を工夫して効率的な運用が実現しつつあるが、事務職員については未だである。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・海外との交流の活発化と広報の充実。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・アジアからの秋季入学制度（NIFEEプログラム）を設けることによってアジアとの交流促進を図る。 ・工学部／工学研究科の英文ウェブページを充実する。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・NIFEEプログラムでの留学生入学募集に対し、一般応募は0であったが、フェ市との協定に基づく志願者が4名あり、現地での面接選抜試験を経て6月の教授会で3名の合格を決定した。 ・英文ウェブページの見直し改訂が終了した。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金の増加策を検討すべきである。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進企画室を中心に、申請の奨励とプロジェクト研究の推進を図る。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・申請募集情報をみて可能性のありそうな教員の応募を勧める体制の構築が始まった。 ・工学部プロジェクト研究の推進を学部内で検討中であり、今年度にまとめる予定。

要改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ・改組による発展充実を期待している。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

・基盤となる3学科（機械、電気電子、物質）と二つの新しい融合学科（知能メカトロニクス、光応用物理）からなる改組計画案を審議検討中。（21年3月をめどに態度決定）

改善結果

・上記の改組計画案が3月の教授会で可決に至らなかったため、当面は既存の学科体系のなかで改革を進めていくこととし、今後全学の組織変更と連携を取りながら発展の可能性を検討していく。